



### 鉄スクラップ暴落

昨年秋から、上昇続きだった鉄スクラップが暴落しています。今年、年初から見ると、7月までで3万円強の値上がりでした。この間、1000円、2000円単位で断続的に上がってきたのですが、下げに入ると、1回の下げ幅が、5000円などと上昇局面の倍の速さで下がっています。ピークから見ると、1ヶ月半で15000円程度の下げとなっております。つまり、半年掛けて上がった分の半分が、1.5ヶ月で下がった事になります。その理由の一つとして挙げられるのが、国際価格より割高だったという事です。日本の鉄スクラップの主要消費国である韓国は、ロシア屑や、米屑など割安な先から調達しています。7月以降、輸出の新規商談が途絶えているとの声も聞こえてきています。やはり商品には、プライシングという機能があって行き過ぎると是正されていく様です。以前、ステンレスが暴騰した際には、クロム系素材へのシフトが起こり、ステンレスの価格は、暴騰前の水準まで戻りました。鉄の場合、高いといってもまだ他の素材よりは安いので、ステンレスの時の様な、目立った代替は起こらないと思いますが、アルミなどへの競争力が弱まった事には、変わりありません。例えば、自動車部品の様に、燃費という要素が絡んだ場合、足回り部品のアルミ化もメリットが感じられる様になり、一部では代替も起こっています。この様に徐々にではありますが国内的には、需要の変化が起こってくるかもしれません。一方で、海外での需要は、BRICs、VISTといった新興国の経済成長もあり、まだまだ伸びると思われれます。ですから、今回の下げは、行き過ぎた価格の是正と捕らえるのが正しいのかもしれませんが、国内景気も前回の様に、3つの過剰を抱えている訳ではありませんので、大きく沈む事はないと予測されていますが、一方で、上昇力が弱いのも確かです。ドーハ・ラウンドの決裂などでニュースになりましたが、日本も、異常な高関税で保護するのではなく、規制緩和による内需拡大が望まれます。

### 産業廃棄物処理業講習会にて

当社も、産業廃棄物処理業の許可を取得していますが、その許可取得、及び更新時に知識・技能要件として、「産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会」を受講し、試験に合格しなければならない事になっています。当社では、特に更新時期ではないのですが、知識の更新という意味も含め、受講してきました。この講習では、4日間に渡り行政概論から、技術的な事まで、ホテルに缶詰めになって行きます。その中で、現役の廃棄物指導課の職員も講義を受け持っていたのですが、その話を聞いていると、以前より排出事業者、処理業者に対する要求が厳しくなっている様に感じられました。ある県では、廃棄物指導課の職員の半数が、警察官だと言う事です。従来では、悪質な業者などは、県の職員など脅して追い返してしまうという事でしたが、警察官ですとそうは行きません。厳しく立ち入り調査、指導が行われる事になります。また、許可業者につきましても、プロとして排出事業者など取引先と応対することが求められています。悪貨が良貨を駆逐する事があってはなりません。お客様からは、当社の対応が厳しすぎるとの声も頂くのですが、今後につきましても、皆様にご迷惑が掛からない様、きちんと法の趣旨に則って進めていきたいと思っておりますので、宜しくご理解の程、お願い致します。

### ブルネイ・ダルサラール国

珍しい国に行ってきました。地元の商工会の企画だったのですが、近年の原油高もあり、燃料関係の仕事をしているメンバーから、是非一度産油国を見たいとの希望があり、今回の企画となりました。

さて、このブルネイですが、やはり非常に裕福な国と言っていると思います。立憲君主制であり、国王が支配しております。もちろん、税金、医療・教育・年金といった公的負担は、一切ありません。でも、年金も貰えます。一方で、これは王族の収益が非常にいい事を物語っています。油田の収入だけでなく、全ての大手企業の株の50%は王族が所持しています。敬虔なイスラム教徒にとって、賭け事は禁止です。株式市場もその一環と捕らえられています。つまり、証券市場が無い為、支配力の変化も起こりません。まあ、これがいわゆる税金なのかも知れません。人口も少ないのですが、一人当たりのGDPは、日本の86%とかなりいい所にあります。隣国マレーシアが日本の14%なのを見ても、産油国がいかに裕福かが分かります。この国を訪れる日本人は、年間4000人だそうで、その大半が、油田を協同運営する三菱商事の社員では、との事でした。南国らしく、緩やかに時間が流れていますが、やはり、資源を持つ国は裕福ですね。市場だけ見ると、アジアの途上国そのままですが。